

# 「特殊器台透かし文様の起源に関する研究」

白井 洋輔  
吉備国際大学・文化財学部  
文化財修復国際協力量科

弥生時代末期から古墳時代中期において、吉備国といわれる一帯はわが国で最も栄えていた。その吉備国が蓄えていった「力」と「文化」およびわが国で初めての国家へ向けての収斂前夜とも云うべき「時期」を象徴的に表しているものが「特殊器台」である。これを抜きにしては吉備国は語れない。

次の時代に全国の埴輪誕生へと繋がる特殊器台は大王の葬送儀礼とそれに伴った王位継承と云う重要なまつりごとに使われたものである。国指定重要文化財であるにもかかわらず、その主たる文様である直弧文（ちよっこもん）および巴形渦巻透かし文様の意味やルーツは依然として謎に包まれたままである。その謎に敢えて挑んでみたのがこの論考である。

キーワード：特殊器台、肩帯、イモガイ、巴形渦巻文様盤

はじめに

どの地域よりも早く誕生し、量的にも卓越している吉備国の特殊器台は、吉備国の次に隆盛を持って国家統一を果たした大和政権にも強い影響を与え、日本の古墳時代における埴輪の母体となっていったことも周知の事実である。

クニが色々なものを整えながら国へと巨大化していく過程において生まれた特殊器台を知ること、吉備国を理解する上で不可欠である。

こうした過程の中で首長が亡くなった場合は、時代や場所に関わらず、当然のこととして後継者選が政治的結束を維持する上で緊急の最重要課題となるはずである。まして、稲作の普及、塩、鉄、窯業などで富が蓄積され、次第に階層が分離していき、支配層は特に強大になっていく過程をたどっていた弥生時代末期ともなれば、その組織の存亡にとってリーダーの役割は特に

重要になっていったはずである。

そのような中で必然的に起こる後継者選は危険もはらみ、まかり間違えば大混乱を招くことは必定なことである。そうした混乱を避けた政権委譲を望むならば、何らかの儀式が必要であったことは誰でも十分に想像できる。

そのためにはマジカルな霊力を借りようとも、後継選は誰もが納得できるものでなければならなかったはずである。

特殊器台はこうした権力の無事な委譲を行うために必要な儀式を最大限演出するものとして作られ、そして使われた可能性が高い。強い組織の生まれる状況が生じれば、国や時代を問わず、現れるはずであると考えられる。

その問題解明に挑む糸口を掴むために私は、この全国的に有名で重要な意味を持つ特殊器台の文様は日本のフィールドや文化だけで生み出されたものではないかも知れないと云う、少し次元を変えて空間的領域を広げてみる必要性を感じている。

その特殊器台に描かれた文様が何を表現しているのか、あるいはまたその文様のルーツが何処にあるのかに関しては、これまで全くの謎のままではある。私は20年前（1987）に台湾やフィリピンの国立博物館で巴形渦巻文様円盤（シェルディスク）と最初に遭遇した。

さらに14年前には台湾で、一部少数民族の所持する肩帯（チェンタイ）なるものを目撃し、調査し、考察してきた。驚くことに特殊器台も巴形渦巻文様と鋸歯文のセットになっている日本のものと全く同様に、ここでも巴形渦巻文と鋸歯文がセットになっていた。

それ以来徐々にそこに施された東南アジアの文様と日本の特殊器台の透かし文様の関係に一層着目し、その調査以来徐々にフィールドを拡げていった。

2005（平成17）年には、わが国の弥生時代における文様と台湾少数民族であるパイワン（排湾）族、ルカイ（魯凱）族、ペイナン（卑南）族との比較研究するために現地調査を実施した。

引き続きそれに関連して2006（平成18）年には、パプアニューギニアにおける重要な貝文化と、それと密接に関係した文様、あるいはシェルマナー等の実情を調べた。

それらすべてを踏まえて、今考えられる最も可能性のあるものとして敢えて臨んだのがこの研究である。

．原始古代の文様

【そこに無意味な文様は何もない】

- 1．原始古代の代表的な文様
- 2．特殊器台に刻まれた透かし文様について
  - (1) 巴形渦巻文様
  - (2) 1つの仮説
  - (3) 描き順
  - (4) 技法
  - (5) 透かし文の大きさ

．巴形透かし文様の原型と導入ルートを求めて

【台湾の山岳少数民族に巴形渦巻文は今なお残っている】

巴形渦巻文様は日本だけ調べても、そのルーツを知るには限界がある。同じものが東南アジアで広く出土し、そして今なお使用されている地域がある以上、巴形渦巻文様円盤の作り方、使われ方を調べてみる必要がある。それは今残っている所を探して、そこに立って見て、遙か日本の遠い過去の状況を知ることには他ならない。それもしないで、分からない、分からないと日本国内だけで思案するよりも遙かに有効な突破口ではないかと思う。それが私の仮説樹立の基本姿勢である。こうして巴形渦巻文様円盤ないし、同透かし文の導入ルートの探索が始まった。

- 1．台湾省立歴史博物館（現国立歴史博物館）で見たもの、そして14年
- 2．少数民族を訪ねて
- 3．巴形文円盤はイモガイ螺塔部で作った可能性が高い
- 4．台湾原住民が持っている肩帯、そのかたちと意味
  - (1) 巴形渦巻文様円盤の重要度  
日本と全く同じ意味で使われている。その上貨幣としてもつい最近まで機能してい

た。山岳民族の彼らは南方から交易によって手に入れている。

(2) それが貴重な理由

- 5．肩帯保有民族は現在台湾南部から東部にかけて偏在して残っているが、その偏在の意味
- 6．巴形渦巻文様の本来の意味
  - (1) 意味は1つとは限らない
  - (2) 永続性
  - (3) 蛇
  - (4) 生と死
  - (5) 魔除け

．パプアニューギニアでの巴形渦巻文様円盤

【巴形渦巻文様円盤の現存密度の濃い方向に向かって歩を進めて、その先にたどり着いたのが、赤道直下の巨大な島で、700以上も部族と言語があるというパプアニューギニアであった。巴形渦巻文様円盤に対するここでの価値は想像を遙かに超えるものであった。イコール「マネー」、イコール「力」であった。さらに現在の為替に当たるような意味さえ込められていた。地位を象徴するもの、財力を象徴するものはもちろん、数百キロメートルと離れた海岸と山岳地方で他民族、多言語を渡って交易をするには「生もの」の移動は無理だし、多数の民族を通過するためには「もの」に対する絶対的な価値を表すものがようになってくるのである。1万年も前からシェルマネーは存在しているのである。】

- 1．パプアニューギニア
- 2．パプアニューギニアの巴形渦巻文様円盤使用例
- 3．貝が人を惹きつけたもの
- 4．シェルマネー
- 5．パプアニューギニアと貨幣
- 6．貝貨は古代人が発明した為替のようなもの
- 7．シェルマネー発明の鍵は交易の主役を演じたエラやマダンにある

．イモガイから巴形渦巻文様円盤を作る

【巴形渦巻文様円盤をよく知るには、まずそれを作って見ることであり、それによって技法、思いが見えてくる】

1. イモガイの種類と部位
2. イモガイ螺塔部スライス
3. 腕輪の場合の利用部位

おわりに

やはり私の、特殊器台の巴形透かし文様はかなり重要な意味を持つもの、すなわち巴形渦巻文様円盤と鋸歯文の連続したもので、しかも岡山と直近の外国という位置にある台湾とはストレートに「王権継承」の意味を兼ね備えていた。

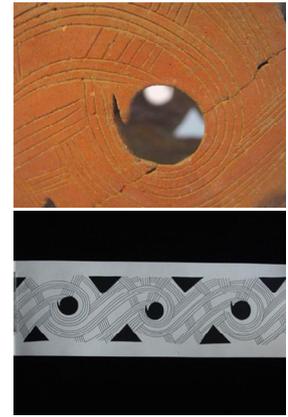
またどの国でもどの民族でも共通して「極めて重要なもの」であった。

歴史というのは、タテにある国とヨコにある国がある。エジプトや中国のような巨大な国はヨコにある。カイロや上海は東京と何ら変わらない。ところが大きな国は同時に何百年何千年前の生活が今でも国のどこかで見られる。そして「日本の歴史」はタテにあると云われている。百年前の生活を日本で探すことは出来ない。まして千年前の生活などどこにもあり得ない。そのためヨコにある国と比較した場合、文化を遡って知るには、歴史がタテにある国はたどっていく上で考察が途切れやすく、弱い部分があると思われていたが、それは日本の歴史や民族文化を日本のみで考えるからである。

もしフィールドをアジアとか黒潮流域に広げて考えれば、案外ヨコにも広がるもっと正確な歴史を知ることが出来る。その時日本はもっとドラマチックに、謎に包まれた古代史の姿を次第にわれわれに見せてくれることになる。

その線上で考察したのが、吉備国の特殊器台の巴形透かし渦巻文様のルーツは東南アジアのイモガイの螺塔部をスライスしたシェルディスクに原型があるのではなかろうかというのが私の追求した成果であり、サゼッションである。

われわれの知らないところで、知らない過去において意外な程アジアは繋がっていることを知って欲しい。



重要文化財 特殊器台 岡山県立博物館蔵



台湾の山岳少数民族の肩帯、同部分



パプアニューギニアの巴形渦巻文様盤



イモガイ螺塔部をスライスして円盤の再現